

校長室だより

平成27年 10月 2日 (金)

羽咋市立瑞穂小学校 No.6



共 育

今年は中秋の名月に続き「スーパームーン」が見事に夜空に浮かび上がりました。10月に入り、虫の声と共に秋の深まりを感じる今日この頃です。

さて、教育活性化プランの取組も、本格的に動き始めています。そんな中、5、6年生を対象に「夢・生き方について考えよう」というテーマで、自分の夢や目標について考える時間を作りました。これまでの学習の概要と子どもたちの感想をお伝えします。



1時間目 EXILEのASTUSIさんの夢・生き方から考える

『夢がないなら 夢をさがすことを 夢にする』(あつし)

EXILEのボーカルあつしさんはサッカー選手を目指し、サッカーの強豪校へ入学する。ところが自分より優秀な選手ばかりの学校で挫折を味わい、夢を断念する。その後、苦しい高校時代を経て、歌で人の心を和ませる喜びを知り、歌手の道を志す。そんなあつしさんがこれから夢をもって生きようとする子どもたちに向け、自分のこれまでの人生を語っている。「夢がないなら夢をさがすことから始めればいい」と言い、挫折の中、何か一つだけ、自分のよいところを自分で認められたことから、希望の道が開けた経験を語っている。「人生の通知表には自分にとっての5が一つだけあればいい。答えを探し続ける心が、道を照らしてくれる。」と話している。

- ・ほくははっきりとした夢はないけど、ほく自身の夢を少しずつ明確にしていきたい。夢は何度かなわなくても、気持ちだけでどれだけでも立ち直ることができるということを知った。
- ・この授業をして思ったことは、夢はむりやりつくらなくても、生きていくうちに、見つかるのかなと思いました。
- ・あつしさんはテレビでみているときはカッコいいし、歌もうまくてすごい人だと思っていたけど、昔はまよいもあってすごくつらかったんだと思いました。私は、夢は本当に大切なんだとわかりました。私も夢におかっただけでがんばりたいと思いました。

(6年の授業から)

2～3時間目 パティシエ 辻口 博啓氏の夢・生き方から考える

『自分の人生の真の喜びは、全力投入してそれが報われた瞬間に感じるものだ』

(パティシエ 辻口 博啓)

ふるさと七尾を離れ、パティシエの修業に出た頃、家が倒産し、お母さんが苦勞して妹や弟の学費を稼いだ。故郷へ帰る選択肢もあったが、それでも辻口さんは夢を捨てず、人の3倍の努力を重ね、パティシエとして認められるようになった。やがて数々の栄光を手にし店も持つようになったころ、東日本大震災が起こる。かつて能登沖地震のときに多くの人がボランティアとしてふるさと能登を救ってくれたことを思い出し、自分も、東日本大震災で被災された方々を少しでも慰めようとする。辻口さんは、ふるさとの素晴らしさをわかってほしいこと。夢は一つだけで完結するものでなく、次の夢へとつながること。自分のための夢がいつしか人のため社会のための夢へと変わることを教えてくれている。

夢をあきらめなかったのはなぜ…

- ・東京へ行かせてくれた家族を裏切りたくなかった。期待に応えなかったから。
- ・自分だったら夢をあきらめていた。辻口さんはすごい人だと思った。
- ・一人前になって母親を支えたかったから。 (5年の授業から)。

4時間目 「未来へつなぐメッセージ」でお世話になった杉本孝丸さんから学ぶ



杉本さんの、小学校から今の職業に就くまでのお話を聞きました。「世の中に無駄なものはない。」という言葉から、何事も自分のためになると思う姿勢を大切にしてほしいというお話と、「一言芳恩」声をかけてもらえることのありがたさについてお話ししていただきました。

「夢」や「生き方」について考えるのは小学生ではまだ、早いかなとも思いますが、この4時間を通して、子どもたちは、自分の夢や生き方について真剣に考えるようになってきました。

多くの人の生き方に触れ、自分がこれから何を大切に生きていこうかをイメージすることは小学生の段階からとても重要なことです。漫然と時間を過ごすのではなく、充実した生き方を目指して大切な時間を過ごしてほしいと願っています。

この学習は、この後、お家の人に夢をもって生きるためのヒントをもらってこようという活動に入ります。そして一連の学習のまとめでは、20歳の自分に向け、今、自分が思っている「夢」や「生き方」について作文にまとめる計画でいます。

5, 6年生のお家の方をお願いします。ご家庭でも、この機会を活かして、お家の方の願いやお父さんやお母さんが社会人として、または職業について、大切にしていることなどを率直にお話ししていただけたらと思っています。ご協力をよろしくをお願いします。